

図 6.1-6 発生源別SO₂排出量比較

表 6.1-43 地域別排出量の比較

(トン/年)

		SO ₂			NOx			PM		PM10			
	2003	2010	2010/2003	2003	2010	2010/2003	2003	2010	2010/2003	2003	2010	2010/2003	
南明区	36,098	16,473	0.456	5,923	8,351	1.410	11,424	13,921	1.219	3,783	4,158	1.099	
云岩区	15,903	14,316	0.900	2,559	2,783	1.087	2,839	2,891	1.018	1,824	1,909	1.046	
花溪区	6,569	6,461	0.984	1,421	1,687	1.187	7,459	10,756	1.442	7,235	10,715	1.481	
乌当区	15,252	10,310	0.676	3,323	3,474	1.045	4,451	4,260	0.957	1,526	1,552	1.017	
白云区	26,304	33,370	1.269	4,342	5,794	1.334	5,278	6,895	1.306	1,895	2,295	1.211	
小河区	3,185	3,411	1.071	481	629	1.308	531	649	1.221	373	445	1.196	
金阳新区		5,433			941			1,394			307		
清镇市	90,009	86,247	0.958	11,338	18,937	1.670	22,543	40,756	1.808	5,719	10,093	1.765	
息烽县	4,951	5,682	1.148	1,087	1,375	1.265	4,001	5,545	1.386	1,364	1,829	1.341	
修文县	9,208	6,525	0.709	1,366	1,123	0.822	1,706	1,343	0.787	1,045	694	0.664	
开 阳 县	7,243	7,606	1.050	1,313	1,465	1.115	1,732	1,938	1.119	705	746	1.058	
合 計	214,721	195,835	0.912	33,153	46,559	1.404	61,964	90,348	1.458	25,470	34,742	1.364	

6.1.3 移動発生源

(1) 交通量

貴陽市では、中心地域への迂回交通量の乗り入れ制限、大型トラックの乗り入れ・時間帯規制を行っており、公共交通優先の交通対策を行っており、今後とも継続される方針である。また、2010年には小型客車の中心地域乗り入れが禁止される。これらを考慮して2010年の交通量を予測した。乗用車・客車類の予測は旅客者の道路輸送量を用いて予測した。貴陽市の道路旅客輸送量の経年変化と2010年の予測値を表6.1-44に示す。2010年の各道路の乗用車・客車類の交通量は2003年の1.36倍とした。なお、小型客車の乗り入れ禁止に伴って、小型客車の交通量を大型客車の交通量に転換させた。転換係数は0.5とした。

表 6.1-44 貴陽市道路旅客輸送量の予測

(万人) 伸び 績 推計 値 2010/2003 1999 2000 2001 2002 2010 1998 2003 13,604 道路旅客輸送量 14,885 15,656 16,555 17,518 18,493 25,141 1.360

大型貨物車・小型貨物車の予測には道路貨物輸送量を指標に用いた。予測に用いた道路貨物輸送量の経年変化と2010年の予測値を表 6.1-45に示す。なお、予測には2000年~2002年の輸送量で予測した。2010年の各道路の大型貨物車・小型貨物車の交通量は2003年の1.29倍とした。

表 6.1-45 貴陽市道路貨物輸送量の予測

(万トン) 伸び 績 推 計 値 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2010 2010/2003 3,978 道路貨物輸送量 2,760 3,250 3,750 4,105 4,299 5,542 1.289

2010年の各道路の平日日交通量と休日日交通量を表 6.1-46、表 6.1-47に示す。

表 6.1-46 平日の車種別日交通量 (2010年)

							(台/日)
	普通乗用車	その他乗用車	大型貨物車	小型貨物車	大型客車	小型客車	合計
宝山北路	38,402	7,104	2,884	8,526	17,274		74,190
瑞金北路	16,071	2,291	196	2,210	8,268		29,036
沙冲北路	35,402	5,045	2,466	10,700	16,576		70,190
浣 纱路	45,479	6,636	1,865	18,278	23,673		95,931
遵義路	26,290	2,830	131	5,978	12,723		47,951
北京路	39,504	5,558	1,868	8,547	16,617		72,094
延安西路	35,233	3,341	110	3,346	12,025		54,055
花渓路1 (平面部)	25,697	5,271	828	4,809	10,714		47,319
花渓路1 (高架部)	8,908	2,623	1,741	6,603	4,282		24,156
解放路 1	38,003	5,750	4,969	13,206	15,709		77,636
宝山南路	16,142	3,114	1,429	7,195	7,202		35,082
中華北路	28,416	3,344	114	213	7,462		39,548
新華路	35,515	4,185	365	4,784	12,212		57,061
瑞金中路	37,218	4,844	91	3,949	13,276		59,379
瑞金南路	28,080	3,357	93	3,077	13,530		48,136
解放路 2	27,245	5,068	2,109	11,639	12,606		58,666
花渓路2	38,218	8,587	5,188	15,599	28,944		96,536
興関路	16,548	4,696	89	1,639	4,140		27,112
中華南路	40,606	3,036	64	303	5,680		49,690
延安東路	30,538	3,327	122	1,642	11,850		47,480
中山東路	17,261	2,027	111	1,462	8,523		29,384
神奇路	21,590	2,495	452	1,975	8,764		35,276
市南路	12,709	1,864	159	3,206	5,490		23,428
中山西路	28,153	2,678	26	1,391	9,011		41,258
都司路 2	24,695	4,946	1,986	7,627	7,016		46,271
貴黄公路	3,721	1,796	1,643	2,061	3,780		13,002

表 6.1-47 休日の車種別日交通量 (2010年)

(台/日)

	普通乗用車	その他乗用車	大型貨物車	小型貨物車	大型客車	小型客車	合計
宝山北路	32,440	4,472	1,370	7,150	14,178		59,609
瑞金北路	13,353	1,419	92	1,823	6,703		23,389
沙冲北路	34,139	4,019	2,476	5,389	16,446		62,469
浣 纱路	44,607	5,378	1,904	9,363	23,904		85,156
遵義路	23,886	2,300	122	4,786	11,983		43,078
北京路	33,023	3,462	878	7,092	13,560		58,015
延安西路	33,552	2,179	75	2,720	11,077		49,604
花渓路1 (平面部)	25,285	3,553	584	4,039	9,857		43,318
花渓路1(高架部)	8,411	2,607	1,940	5,410	4,100		22,469
解放路 1	37,009	4,626	5,037	6,717	15,724		69,114
宝山南路	13,623	1,958	678	6,027	5,906		28,192
中華北路	23,469	2,058	53	175	6,086		31,840
新華路	32,255	3,401	341	3,829	11,433		51,261
瑞金中路	35,783	3,190	63	3,241	12,196		54,474
瑞金南路	25,331	2,709	86	2,446	12,716		43,288
解放路 2	26,939	4,140	2,171	6,010	12,768		52,027
花渓路2	36,905	6,850	5,216	7,867	28,771		85,608
興関路	15,649	3,669	88	809	4,066		24,281
中華南路	37,957	1,944	43	242	5,240		45,426
延安東路	29,274	2,185	84	1,344	10,751		43,638
中山東路	16,529	1,330	76	1,195	7,874		27,004
神奇路	20,761	1,643	311	1,621	8,052		32,388
市南路	12,364	1,242	111	2,662	5,094		21,473
中山西路	26,764	1,744	18	1,128	8,225		37,879
都司路2	23,971	3,847	1,945	6,296	6,504		42,564
貴黄公路	4,628	2,025	1,478	1,423	4,408		13,962

(2) 排出量

中国ではEURO2 の規制が 2005 年から予定されており、2008 年または 2009 年にEURO3 の導入が予定されているが、2010 年にはEURO3 の排出量への影響は少ないと予想されるため、2010 年の排出係数にはEURO2 の規制だけを考慮した。なお、 SO_2 と PM_{10} の排出係数は 2003 年と同じとした。2010 年の車種別の排出係数は表 6.1-48 のとおりである。2010 年の調査対象道路からの大気汚染物質の排出量は表 6.1-49 のとおりであり、 SO_2 が 179 トン、NOxが 1835 トン、 PM_{10} が 91 トンとなっている。

表 6.1-48 車種別自動車排出係数 (2010年)

(g/km)

								(g/ Km)
			SO ₂			NOx		PM10
		平均	車速(km/h)	平均	(km/h)		
		20	30	40	20	30	40	20~40
乗用車	普通乗用車	0.155	0.108	0.078	0.88	0.85	0.87	0.021
	その他乗用車	0.155	0.108	0.078	1.08	1.04	1.04	0.024
客車	小型客車	0.222	0.166	0.129	1.14	1.07	1.04	0.094
	大型客車	0.554	0.430	0.351	7.27	6.39	5.90	0.418
貨物車	小型貨物車	0.215	0.153	0.112	1.22	1.18	1.17	0.056
	大型貨物車	0.494	0.401	0.341	9.96	8.57	7.78	0.551

表 6.1-49 交通量調査対象道路からの排出量(2010年)

(トン/年)

SO_2	NOx	PM_{10}
179.1	1834.8	91.3

(3) 排出量比較

2003年と2010年の自動車からの排出量の比較を表 6.1-50に示す。

表 6.1-50 調査対象道路からの排出量比較

(トン/年)

	SO_2	NOx	PM_{10}
2003	124.1	1536.2	49.5
2010	179.1	1834.8	91.3
2010/2003	1.44	1.19	1.84

6.1.4 将来年の排出量分布

(1) 点源の排出量分布

図 6.1-7~図 6.1-9 は、2010 年における SO_2 、NOx及び PM_{10} の排出量分布図である。 SO_2 及びNOxでは、清鎮市の東南部で排出量が大きく、次いで南明区、白雲区の順となっている。 PM_{10} では、花渓区、清鎮市が最も大きく、次いで南明区となっている。

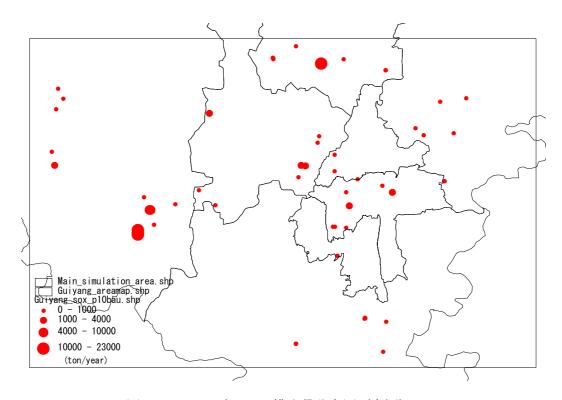


図 6.1-7 2010年のSO₂排出量分布図(点源)

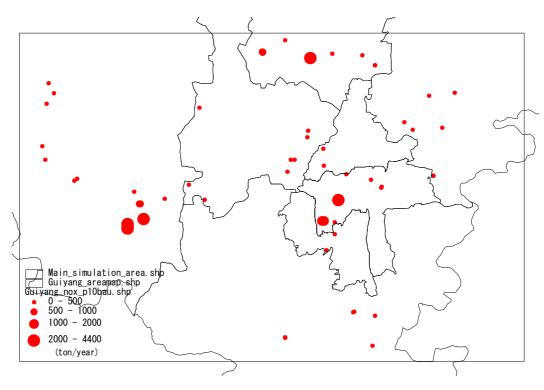


図 6.1-8 2010年の NOx 排出量分布図(点源)

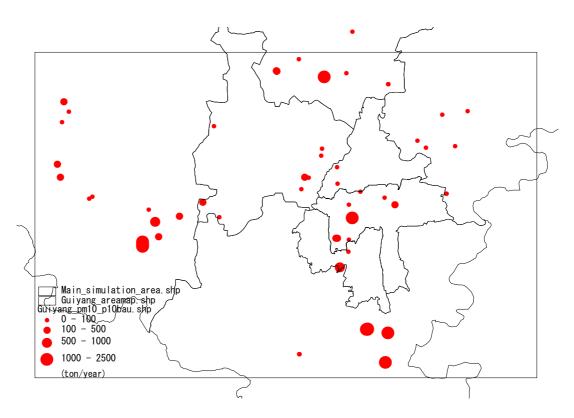


図 6.1-9 2010年の PM_{10} 排出量分布図(点源)

(2) 線源の排出量分布

図 6.1-10~図 6.1-12 は、2010 年におけるSO₂、NOx及びPM₁₀の道路リンク別排出量を示している。全ての対象物質において、花渓路が最も排出量が大きく、次いで浣沙路となっている。市の中心部では、排出量が比較的少なくなっている。

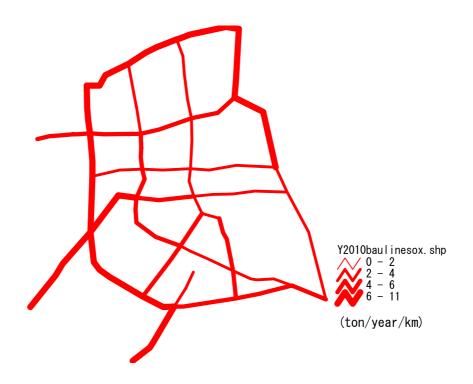


図 6.1-10 2010年のSO₂排出量分布図 (線源)

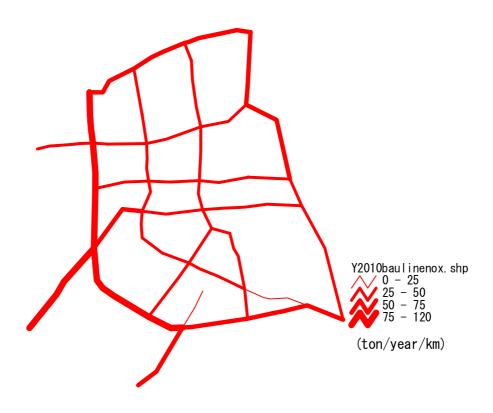


図 6.1-11 2010年の NOx 排出量分布図 (線源)

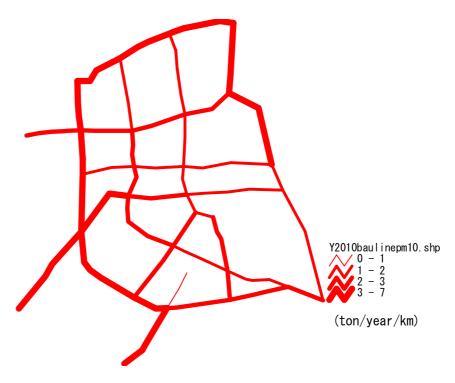


図 6.1-12 2010年のPM₁₀排出量分布図(線源)

(3) 面源の排出量分布

図 6.1-13~図 6.1-15 は、貴陽市における 2010 年の面源排出量分布図である。 SO_2 及びNOxでは、雲岩区で最も排出量が大きく、次いで南明区、小河区の順となっている。 PM_{10} は、 SO_2 及びNOxの分布とほぼ同様であるが、雲岩区、南明区、小河区に次いで、白雲区でも排出量が大きくなっている。

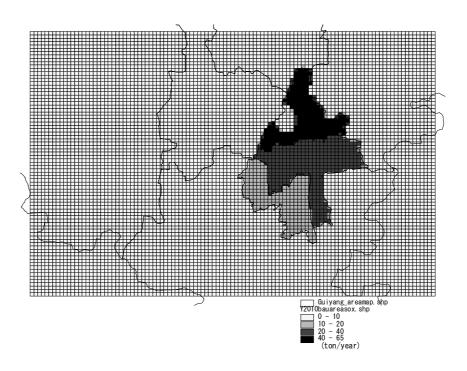


図 6.1-13 2010年のSO₂排出量分布図(面源)

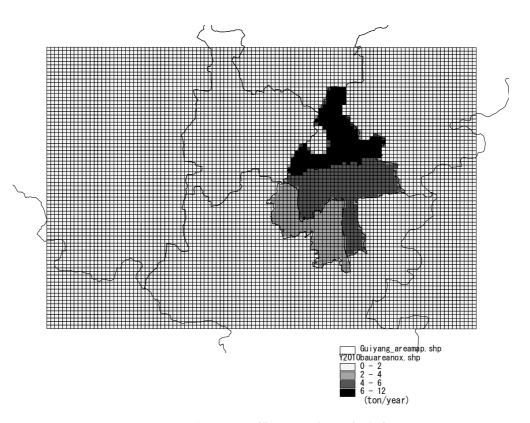


図 6.1-14 2010年の NOx 排出量分布図 (面源)

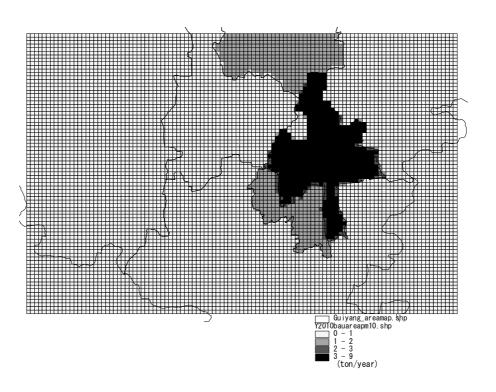


図 6.1-15 2010年のPM₁₀排出量分布図(面源)

(4) 全排出量の排出量分布

図 6.1-16~図 6.1-18 は、貴陽市における 2010 年における SO_2 、NOx及び PM_{10} 排出量分布図である。 2010 年の排出量は、2003 年とほぼ同様な分布を示している。 SO_2 及びNOxでは、清鎮市の南東部及び南明区の中西部における点源による大きな排出量がみられる。また、NOxでは、雲岩区及び南明区の道路で排出量の比較的大きいメッシュがみられる。 PM_{10} では、清鎮市の南東部及び南明区の中西部に加えて花渓区で大きな排出量となった。また、南明区の北側では、道路による排出量の比較的大きいメッシュがみられる。

全排出量と点源・線源・面源排出量との比較では、 SO_2 及び PM_{10} について点源排出量の寄与が大きく、次いで、面源排出量の寄与が大きい。NOxについては、全排出量に対する点源の寄与が大きく、次いで線源による排出量が比較的大きくなっている。また、面源排出量は、全排出量に対する寄与が小さくなっている。

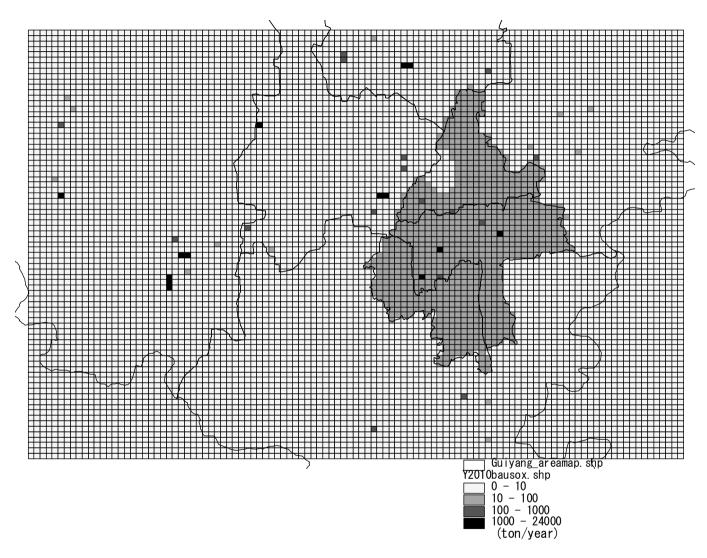


図 6.1-16 2010年のSO₂排出量分布図(全排出量)

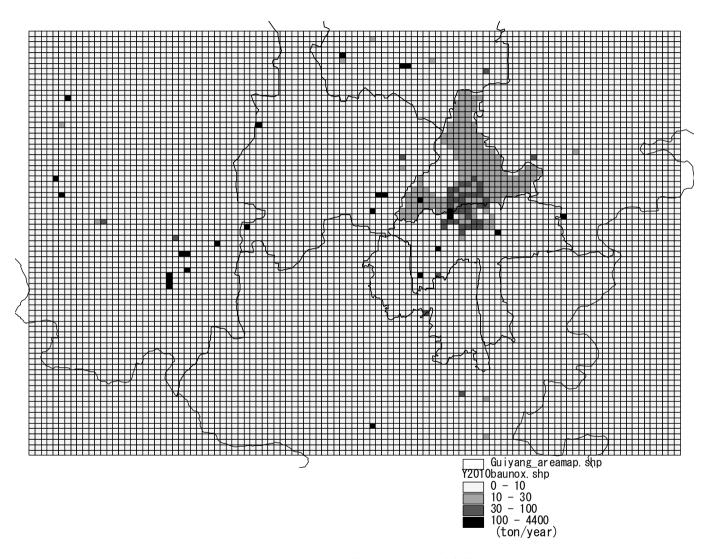


図 6.1-17 2010年の NOx 排出量分布図 (全排出量)

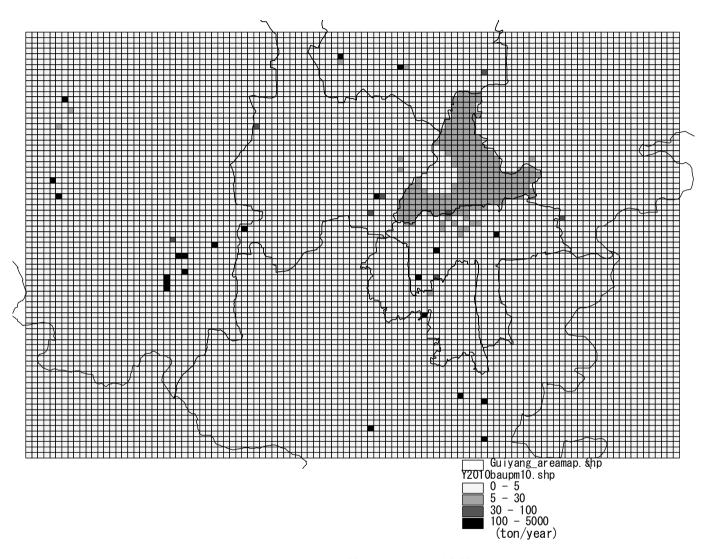


図 6.1-18 2010年のPM₁₀排出量分布図(全排出量)

6.1.5 将来年の濃度分布

貴陽市中心部における 2010 年のシミュレーションでは、2010 年(単純将来)の排出量データ及び 2003 年データにより構築されたシミュレーションと同一の条件設定を用いて計算を行った。ただし、PM₁₀のシミュレーションについては、建設機械等による粉じんは考慮せず、工場、自動車等による燃焼由来の排出量による影響のみを考慮した。

(1) 計算濃度分布

図 6.1-19~図 6.1-21 は、2010 年(単純将来)の SO_2 、 NO_2 及び PM_{10} の計算濃度分布図である。 SO_2 では、2003 年と比較して高濃度メッシュが少なくなっている。2010 年の分布は 2003 年とほぼ同様であり、清鎮市付近、及び南明区と花渓区の境界付近で高濃度となっている。 NO_2 では、2003 年と比較して高濃度メッシュが少なくなっている。特に、清鎮市で濃度の低下が顕著である。 PM_{10} は、2003 年と比較して高濃度メッシュが増加している。分布は、雲岩区、南明区、小河区及び花渓区にかけて高濃度となっている。

(2) 環境基準とシミュレーション結果との比較

表 6.1-51 は、貴陽市に適用される中国の第2級国家環境基準である。

表 6.1-52 は、環境基準と 2010 年(単純将来)のシミュレーションとの比較結果である。中国の年平均環境基準を越えた計算メッシュは、 SO_2 では 847 メッシュ(9.8%)、 NO_2 では 11 メッシュ(0.1%)、 PM_{10} では 19 メッシュ(0.2%)ある。特に、 SO_2 の環境基準を越えた計算メッシュが多いことが顕著である。

表6.1-51 貴陽市に適用される環境基準 (mg/m³)

	年平均値	日平均値				
SO_2	0.060	0.150				
NO_2	0.080	0.120				
PM_{10}	0.100	0.150				

表6.1-52 2010年のシミュレーション結果と環境基準との比較結果

項目	基準超過ボックス数/全計算ボックス数							
	年平均基準	日平均基準						
SO_2	847/8611	21/8611						
NO_2	11/8611	4/8611						
PM_{10}	19/8611	6/8611						

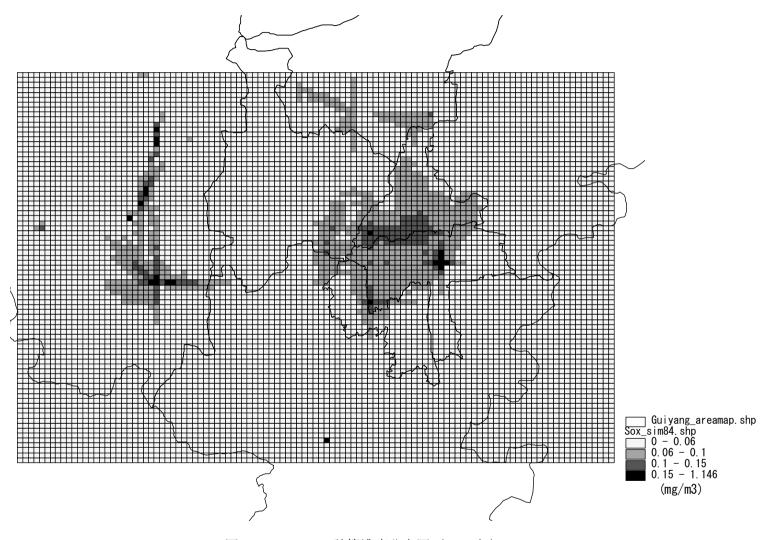


図 6.1-19 SO₂の計算濃度分布図(2010年)

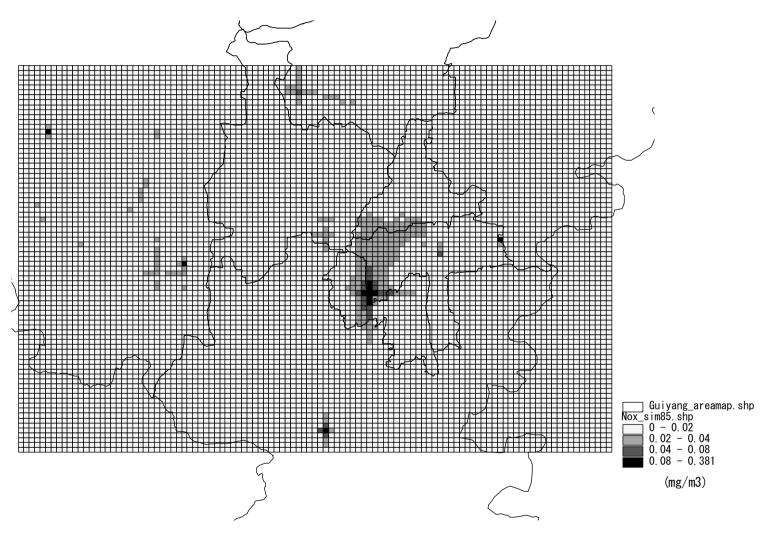


図 6.1-20 NO₂の計算濃度分布図 (2010年)

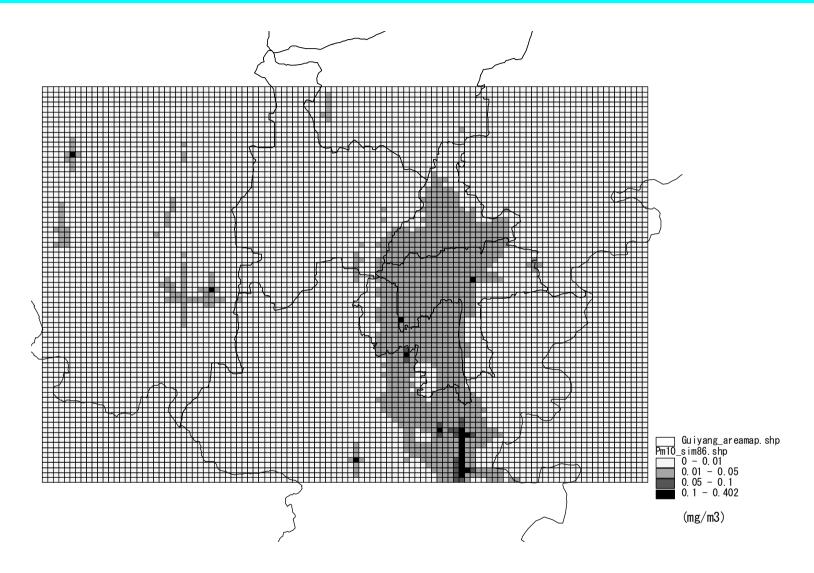


図 6.1-21 PM₁₀の計算濃度分布図 (2010年)

6.2 発生源対策とその評価

2010年の SO_2 、 NO_2 、 PM_{10} の予測によると、国家2級環境基準を超過するメッシュが存在する(6.1.5)。 従って、現状で予定されている行政による規制、企業の大気汚染対策では対象地域全域で国家2級環境 基準を達成するには不十分である。そこで、追加の発生源対策が必要になる。

発生源対策としては固定発生源対策と移動発生源対策がある。移動発生源としての自動車の排ガス規制は国家の管轄であり、国家は段階的に自動車の排ガス規制を進めており、2008 年または 2009 年には EURO3 が導入される予定である。従って、今回は固定発生源の対策について検討した。

6.2.1 対策の目標

2010 年を目途に SO_2 、 NO_2 、 PM_{10} について表 6.2-1の環境目標値を達成するものとする。なお、 PM_{10} については、貴陽市では現在、建設工事が各地で盛んに行われており、 PM_{10} には建設工事の影響が非常に高く、また自然界の影響も存在する。そのため、今回は固定・移動発生源による PM_{10} の濃度が環境目標値を越えると予測されるメッシュについてのみ、対策を検討した。

	環境目標値	備考
SO_2	$0.06 \text{ mg} / \text{m}^3$	国家2級環境基準
NO_2	$0.08 \text{ mg} / \text{m}^3$	国家2級環境基準
PM_{10}	0.1 mg/m^3	国家2級環境基準

表 6.2-1 環境目標値

6.2.2 SO₂

(1) 対策

工場対策として以下の対策を実施する。

① 点源対策

- 清镇发电厂が使用する石炭の S 分は 2%とし、石灰スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率 90%)を行う。
- 貴陽市にある循環流動床ボイラはすべて石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率 80%)を行う。
- 中国铝业股份有限公司贵州分公司、贵州水晶有机化工(集团)有限公司の微粉炭ボイラは 簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率 80%)を行う。
- 贵阳特殊钢有限责任公司は簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率 80%)を行う。また、煙突の高さを100mにする。
- 贵州水泥厂は石炭のS分は2%とし、煙突の高さを100mにする。
- 贵阳市麟山水泥厂の煙突の高さを 50m にする。
- 第二玻璃厂はばい煙処理に脱硫剤を添加して水膜脱硫(脱硫率50%)を行う。

② 面源対策

● 南明区と云岩区に存在する工場は全てS分2%の石炭を使用する。

^.*

(2) 削減排出量

上記対策後の SO_2 の排出量を表 6.2-2に示す。対策後の SO_2 排出量は 8 万 4 千トン削減され、11 万 1 千トンとなる。

表 6.2-2 対策後のSO₂排出量(2010年)

(トン/年)

	火力多	宅電所	都市ガス製造業	製造	:業	小	計					合計	
	対策前	対策後		対策前	対策後	対策前	対策後	家庭	事業所	飲食店	対策前	対策後	削減量
南明区	3,840	3,840		9,979	7,008	13,819	10,848	2,653			16,473	13,502	2,971
云岩区				11,296	8,893	11,296	8,893	3,020			14,316	11,913	2,403
花溪区				3,993	3,993	3,993	3,993	2,468			6,461	6,461	
乌当区	1,806	723		5,817	5,817	7,623	6,539	2,198	489		10,310	9,226	1,084
白云区				31,793	16,474	31,793	16,474	1,232	345		33,370	18,052	15,318
小河区				2,613	2,613	2,613	2,613	798			3,411	3,411	
金阳新区				5,365	2,530	5,365	2,530	68			5,433	2,598	2,836
清镇市	56,000	11,200	89	24,854	9,883	80,943	21,172	4,405	899		86,247	26,476	59,771
息烽县				3,085	3,085	3,085	3,085	2,118	480		5,682	5,682	
修文县				3,315	3,315	3,315	3,315	2,498	712		6,525	6,525	
开 阳 县				3,636	3,636	3,636	3,636	3,552	418		7,606	7,606	
合 計	61,646	15,763	89	105,746	67,247	167,482	83,099	25,011	3,342		195,835	111,452	84,383

(3) 対策効果

図 6.2-1は、2010 年の大気汚染対策後の SO_2 シミュレーション結果を示している。雲岩区及び南明区の境界付近で環境基準を越えているメッシュが多く見られる。この原因としては、面源の配分に用いた統計資料では、雲岩区及び南明区の排出量が過大に配分されたためであると考える。超過メッシュの計算濃度は、 $0.1 mg/m^3$ 以下となっており、超過の程度は軽微である。また、雲岩区及び南明区以外では、ほぼ全域で環境基準以下となっている。したがって、大気汚染対策により、2010 年にはほぼ全域で環境基準以下になることが期待できる。

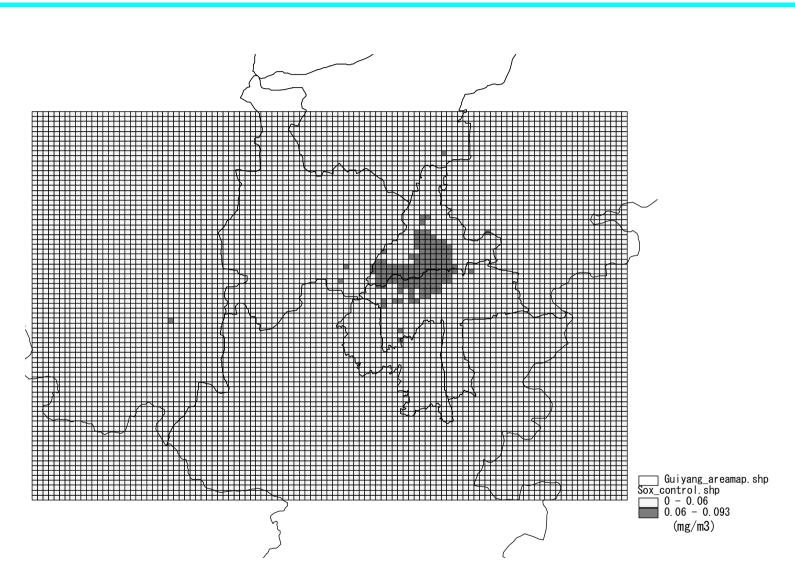


図 6.2-1 2010年のSO₂シミュレーション結果(対策後)



6.2.3 NO₂

(1) 対策

次の対策を実施する。

- 贵州水泥厂の煙突の高さを100mにする(SO₂対策と重複)。
- 贵阳市麟山水泥厂の煙突の高さを 50mにする (SO₂対策と重複)。

(2) 対策効果

図 6.2-2は、2010 年の大気汚染対策後の NO_2 シミュレーション結果を示している。ほぼ全域で環境基準以下となっている。メッシュでは、国家 2 級環境基準を越えているが、日平均基準 $0.12 mg/m^3$ 以下となっており、超過の程度は軽微である。したがって、大気汚染対策により、ほぼ全域で NO_2 濃度が環境基準以下になることが予測できる。

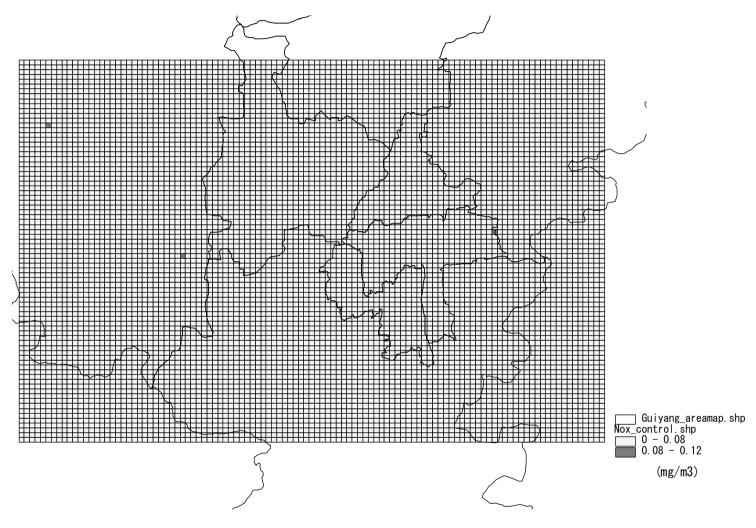


図 6.2-2 2010年のNO₂シミュレーション結果(対策後)



6.2.4 PM₁₀

(1) 対策

次の対策を実施する。

- 贵阳特殊钢有限责任公司の煙突の高さを100mにする(SO₂対策と重複)。
- 贵阳花溪联办建料有限公司、贵阳市花溪鸿丰页岩砖厂、贵阳市花溪龙泉砖厂はばい煙処理 装置としてバグフィルターを設置する。
- 贵州省清镇市新发水泥有限公司は電気集塵機を設置する。

(2) 削減排出量

上記対策後の PM_{10} の排出量を表 6.2-3に示す。対策後の PM_{10} 排出量は9千3百トン削減され、2万5千5百トンとなる。

表 6.2-3 対策後のPM₁₀排出量(2010年)

(トン/年)

	火力	発電所	都市ガス製造業	製造	業	小	計					合計	(12/ +/
	対策前	対策後		対策前	対策後	対策前	対策後	家庭	事業所	飲食店	対策前	対策後	削減量
南明区	2,027	2,027		2,039	2,039	4,066	4,066	92			4,158	4,158	
云岩区				1,804	1,804	1,804	1,804	105			1,909	1,909	
花溪区				10,629	1,604	10,629	1,604	86			10,715	1,689	9,025
乌当区	37	37		1,403	1,403	1,440	1,440	76	35		1,552	1,552	
白云区				2,228	2,228	2,228	2,228	43	25		2,295	2,295	
小河区				418	418	418	418	28			445	445	
金阳新区				305	305	305	305	2			307	307	
清镇市	6,413	6,413	168	3,294	3,069	9,875	9,650	153	65		10,093	9,868	225
息烽县				1,721	1,721	1,721	1,721	74	35		1,829	1,829	
修文县				555	555	555	555	87	51		694	694	
开阳县				592	592	592	592	123	30		746	746	
合 計	8,477	8,477	168	24,987	15,737	33,632	24,382	868	241		34,742	25,492	9,250

(3) 対策効果

図 6.2-3 は、2010 年の大気汚染対策後の PM_{10} シミュレーション結果を示している。ほぼ全域で環境基準以下となっている。2 メッシュでは、国家2級環境基準を越えているが、日平均基準 $0.15 mg/m^3$ 以下となっており、超過の程度は軽微である。したがって、調査団は計算対象とした発生源を用いたシミュレーションでは、大気汚染対策により、ほぼ全域で PM_{10} 濃度が環境基準以下になることが予測できる。ただし、今回のシミュレーションは燃焼由来の排出量のみを対象としているため、発生源の計算対象外である建設機械等の粉じんの影響により、環境基準を越える濃度が出現する可能性があることに留意する必要がある。

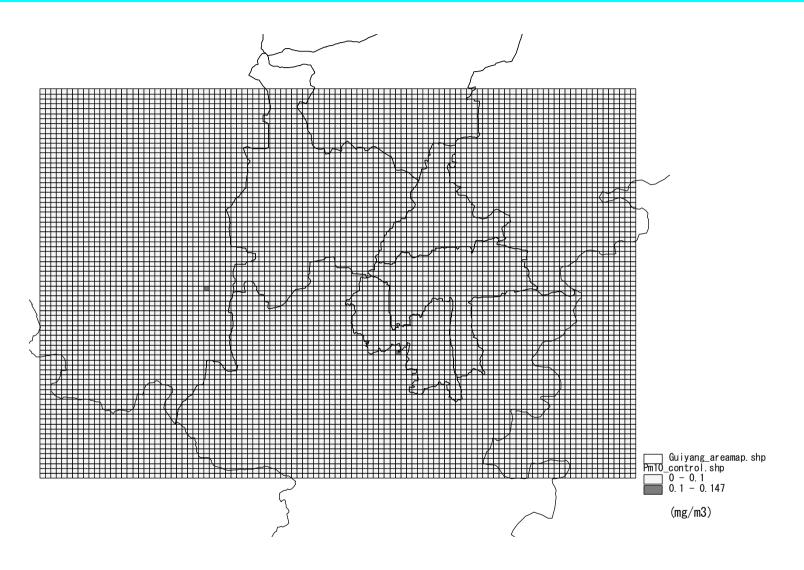


図 6.2-3 2010 年の PM_{10} シミュレーション結果(対策後)

6.2.5 発生源対策費用

 SO_2 、 NO_2 、 PM_{10} の対策のうち、点源に係る対策費用について、工場別・対象施設別に、対策に要する設備費用を日本の事例を用いて積算した。

(1) 積算条件

設備費の概算費用は以下の方法で積算した。

● 排煙脱硫装置

脱硫効率 90%以上:3,380 円 / m³N

ノ 80%程度:2,000円 / m³N

● 炉内脱硫

石灰石 (Ca/S = 2) 供給 (80% 脱硫可能)

ジョークラッシャー + ホッパー + フィーダー

費用 ジョークラッシャー (以下の費用より補間計算)

160kg/h : 300 万円

500kg/h : 380 万円

1,800kg/h:800 万円

ホッパー + フィーダー:ジョークラッシャーと同額費用と設定

石灰石供給量 $(kg/h) = S 分(%)/100 \times$ 石炭使用量 $(kg/h) \times$

石灰石分子量/S 分子量×Ca/S

石灰石分子量:100 (CaCO₃)

S 分子量 : 32

Ca/S : 2

● 煙突

1,000 万円 / 10m

● 水膜脱硫

ホッパー +1 次破砕機 +2 次破砕機 + ポンプ

費用は炉内脱硫の計算に準ずる

- バグフィルター 2,640 円 / m³N
- 電気集塵機 10.000 円 / m³N

(2) 概算対策費用

工場別、対象施設別の概算設備費を表 6.2-4 に示す。設備費の総額は約 260 億円(中国円で約 20 億元)と推定される。簡易脱硫装置を初め、排煙処理装置は中国でも開発・実用化されているが、火力発電所の本格的脱硫装置も、賃金が比較的低い中国国内で安価に生産できる体制を整備することが必要である。

表 6.2-4(1) 概算対策費用(設備費)

対象物質	工場名	施設種類	S分	排ガス量	燃料使用量	対策		設備費	注
			(%)	(m3N/h)	(kg/h)	対策1	対策2	円	
S 0 2	清镇发电厂	煤粉炉	2.00	651,049	56,227	石炭スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率90%)		22億	
		煤粉炉	2.00	706,707	61,034	石炭スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率90%)		23.9億	
		煤粉炉	2.00	2,209,312	168,682	石炭スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率90%)		74.7億	
		煤粉炉	2.00	2,260,984	183,103	石炭スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率90%)		76.4億	
S 0 2	中国铝业股份有限公司贵州分公司	煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	159,149	13,745	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		3.18億	
		煤粉炉	2.98	274,894	23,741	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		5.50億	
		煤粉炉	2.98	274,894	23,741	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		5.50億	
		循环流化床	2.98	97,623	6,651	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1200万	
		循环流化床	2.98	97,623	6,651	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1200万	
S 0 2	贵州水晶有机化工(集团)有限公司	煤粉炉	3.00	104,857	9,056	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		2.10億	
		煤粉炉	3.00	105,285	9,093	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		2.11億	
		煤粉炉	3.00	101,816	8,793	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		2.04億	
		煤粉炉	3.00	105,700	9,129	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		2.11億	
		煤粉炉	3.00	224,807	19,415	簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)		4.50億	
S 0 2	贵阳特殊钢有限责任公司	沸腾炉				簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)	煙突100m	1億	煙突のみ
		沸腾炉				簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)	煙突100m	1億	煙突のみ
		电 炉 (钢)				簡易型スラリー吸収法による脱硫(脱硫効率80%)	煙突100m	1億	煙突のみ
S02, N02	贵州水泥厂	烧成炉(水泥)	2.00	166,159	14,978		煙突100m	1億	
		烧成炉(水泥)	2.00	166,159	14,978		煙突100m	1億	
S02, N02	贵阳市麟山水泥厂	烧成炉(水泥)	3.00	102,703	2,021		煙突50m	0.5億	
		烧成炉(水泥)	3.00	128,379	2,527		煙突50m	0.5億	
S 0 2	第二玻璃厂	煤气发生炉	2.00	88,585	3,035	水膜脱硫(脱硫効率50%)		1500万	ホッパー、1次・2次破砕機
		煤气发生炉	2.00	88,585	3,035	水膜脱硫(脱硫効率50%)		1500万	ホッパー、1次・2次破砕機



表 6.2-4 (2) 概算対策費用(設備費)

対象物質	工場名	施設種類	S分	排ガス量	燃料使用量	対策		設備費	注
			(%)	(m3N/h)	(kg/h)	対策1	対策2	円	
S 0 2	中国南车集团贵阳车辆厂	循环流化床	3.00	26,342	1,795	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		750万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
\$02	贵阳轮胎胶份有限公司	循环流化床	3.00	76,513	5,213	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1000万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	76,298	5,198	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1000万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	76,772	5,230	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1000万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	77,944	5,310	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1000万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	128,422	8,749	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1500万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	131,769	8,977	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1500万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
\$02	贵州化肥有限责任公司	循环流化床	1.65	206,053	14,038	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1300万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
S 0 2	贵阳弘业纺织印染有限公司	循环流化床	3.00	12,787	871	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		600万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
S 0 2	林东矿煤矸石电厂	循环流化床	3.00	80,650	9,128	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1500万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床	3.00	85,207	9,644	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		1500万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
S 0 2	贵州大众橡胶有限公司	循环流化床	3.00	32,939	2,244	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		750万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
S 0 2	贵州前进橡胶有限公司	循环流化床	3.00	48,856	3,329	石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)		800万	ホッパー、1次破砕機、フィーダー
		循环流化床				石灰石混入による炉内脱硫(脱硫効率80%)			
PM 10	贵 阳花溪 联办 建料有限公司	隧道窑(砖)		23,549	418	バグフィルター(除じん効率99%)		6200万	
		隧道窑(砖)		24,040	427	バグフィルター(除じん効率99%)		6300万	
		隧道窑(砖)		26,069	463	バグフィルター(除じん効率99%)		6900万	
PM 10	贵阳市花溪鸿丰页岩砖厂	循环型转窑(砖)		23,556	419	バグフィルター(除じん効率99%)		6200万	
PM 10	贵阳市花溪龙泉砖厂	隧道窑(砖)		29,274	520	バグフィルター(除じん効率99%)		7700万	
PM 10	贵州省清镇市新发水泥有限公司	烧成炉(水泥)		122,999	2,421	電気集塵機		12.3億	

6.2.6 その他提言

上記の対策以外に以下の提言を行う。

(1) 大気汚染対策

① 工場

- 適切なばい煙処理装置を設置し、適切に維持管理する。
- 工場と住居地域を分離する。
- 一般的に煙突が低いので、新設時、大規模な増改築時に煙突を高くする。
- 大気汚染の著しい工場は移転させる。
- クリーンなエネルギーへの転換を促進する。

2 家庭

● クリーンなエネルギーの使用

③ 自動車

- 無理な進路変更、追越しをなくす
- 急な加速・減速を避ける。
- 横断歩道の整備と歩行者優先と安全の確保

④ 道路、空間

- 道路の清掃、散水を行う。
- 植栽により裸地を少なくする。
- ごみを捨てない。

⑤ 建設工事

- 工事現場をカバーで覆う。
- 散水する。
- ・ 洗車する。
- 運搬車の積荷をカバーで覆う。

(2) 石炭灰

石炭灰には以下の提案を行う。

- 石炭灰の有効利用を促進
- 石炭灰の取引市場整備
- 石炭灰の有効利用技術の開発
- 石炭灰利用に対する優遇措置
- 石炭灰有効利用の法整備
- 土レンガの制限・禁止

(3) 地場産業

貴陽市は燐鉱石に恵まれた全国有数の燐鉱業・燐工業地域である。燐鉱山、燐工業の国内モデルとして省エネ、製造工程で発生する副産物の有効利用、廃棄物の有効利用、環境保全を総合的に進める。